

デジタルカメラのムービークリップを活用した跳び箱運動

上柴東小学校

1 単元名 跳び箱遊び 第3学年(体育)

2 単元の目標

跳び箱を使って、自分の体をいろいろ動かして、各種の動きに取り組み楽しむ。

この時期の子どもは、活発に体を動かすことと同時に、仲間とも関わりを深めていくことができる。友達と競争したり、お互いに見合ったりしながら運動に取り組む中で、自らの課題を持ち、運動の楽しさを求めて活動する力を伸ばしていくことが大切になってくる。そのためには、子ども一人一人が自分の伸びを体験し、できた喜びを味わわせる工夫を十分に考えていくことが大切である。

3 指導計画の概要

1	2	3	4	5	時	
学習の進め方を知り、見通しを持つ 自分ができることを知る	準備運動 体ほぐし(ウサギ跳び・馬跳び) 跳び箱を使って(またぎ越し・踏み越し)					
	めあて1	いまできる跳び方で、高かさや向きに挑戦し楽しむ (支持またぎ越し・支持かかえ込み跳び越し)				
	めあて2	少しがんばればできそうな跳び越し方に挑戦する (台上での前転がりなど)				

4 情報機器活用の意図・情報教育の視点



体育の学習においては、これまでに、ビデオカメラを活用して子ども達が自分の動きを確認することは行われてきている。しかし、全員の児童が自分の動きをチェックをするためには、カメラの数や操作性の面を考えると難しいところがあった。

デジタルカメラのムービークリップ機能では、撮影時間決めることができ、5秒の動画で120KBほどになる。そのため1枚のフロッピーディスクに10人の記録をとることができ、1つのグループにちょうどよい量だと思う。ビデオカメラと較べると画質や動きの面では落ちるが、多くの台数が整備されているので、より多くの子どもたちが活用することができる。このことが体育の学習を進める上で大きな利点になる。

5 授業実践の概要

児童はこれまでに社会科見学や係りの紹介などでデジタルカメラを使った活動を経験しているので操作には慣れている。しかし、動画の撮影の経験は初めてだったので、タイミングがずれてしまったり、動きが追えなかったりする失敗があった。何度か繰り返す中で工夫をすることができ、上手に扱うことができるようになった。

展開

子どもの活動	教師の支援・評価
<p>1 準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬跳び ・うさぎ跳び <p>2 めあて1</p> <p>自分のできる跳び方で高さなどを変え、より上手にできるように練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支持でまたぎ越し ・支持でかかえ跳び越し <p>3 めあて2</p> <p>少しがんばればできそうな跳び越し方に挑戦する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台上での前転がりなど <p>4 学習のまとめ・整理運動</p>	<p>互いに声をかけさせ、調子のよい動きができるようにしていく。</p>  <p>同じめあて別のグループで行わせる。</p> <p>子どもの力にあった跳び箱の高さ方向の場を用意する。</p> <p>グループに1台デジタルカメラを用意し、見学者がいたら、撮影の係りをさせて撮れるようにできる。</p>  <p>台上での前転がりの工夫した場を用意し、子どもの力にあった場で挑戦できる。</p> <p>1つの場だけでなく、いろいろな場で挑戦していくよう投げかける。</p> <p>自分の動きを見て更に上手にできるように工夫できる。</p> 